



東照宮、二荒山神社、輪王寺を初めとした多くの歴史ある社寺を有し、全世界から多くの人々が訪れる「世界遺産 日光」。この「社寺の街」のたもとを流れる稲荷川・大谷川は、男体山・赤嶺山・女峰山といった荒々しい山々に源を発し、特に、稲荷川流域は、地形地質、気候などの自然特性などによって土砂生産が著しく、大規模な降雨の際には、溪床に堆積した土砂が土石流となって流れ下り、稲荷川・大谷川と合流に位置する日光市街に対して、多大な被害を繰り返し与えてきました。

1918年（大正7年）、多くの人々の期待を受けて、国による砂防事業が開始され、いくつもの砂防堰堤が築かれてきました。事業開始初期の砂防堰堤は、周囲の緑や山並みと見事に調和した景観を有するほか、現在では、見る事ができない独特な構造形式を有する砂防堰堤もあります。

このような歴史的貴重性および重要性の評価を受け、2002年（平成14年）8月に7基、2003年

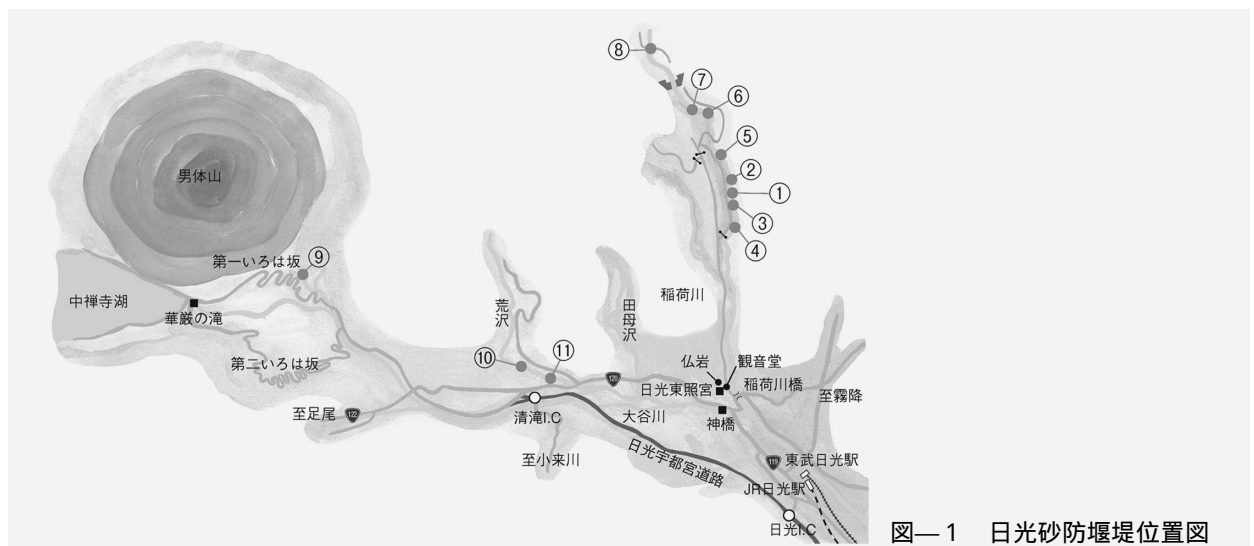
（平成15年）1月に4基の砂防堰堤が国の『登録有形文化財』に登録されました（表—1および図—1参照）。

日光の砂防の歴史は、1899年（明治32年）に遡ります。当初は、5カ年継続の栃木県営砂防事業として、上流域で砂防工事が実施され、巨石の空

表—1 日光砂防堰堤 登録有形文化財一覧

	名 称	建築年代
①	稲荷川第2砂防堰堤	1920年（大正9年）
②	稲荷川第3砂防堰堤	1921年（大正10年）
③	稲荷川第4砂防堰堤	1921年（大正10年）
④	稲荷川第6砂防堰堤	1922年（大正11年）
⑤	稲荷川第10砂防堰堤	1923年（大正12年）昭和期増築
⑥	釜ツ沢下流砂防堰堤	1932年（昭和7年）
⑦	釜ツ沢砂防堰堤	1933年（昭和8年）
⑧	小米平砂防堰堤	1931年（昭和6年）
⑨	方等上流砂防堰堤	1952年（昭和27年）
⑩	丹勢山砂防堰堤	1928年（昭和3年）
⑪	大久保砂防堰堤	1929年（昭和4年）

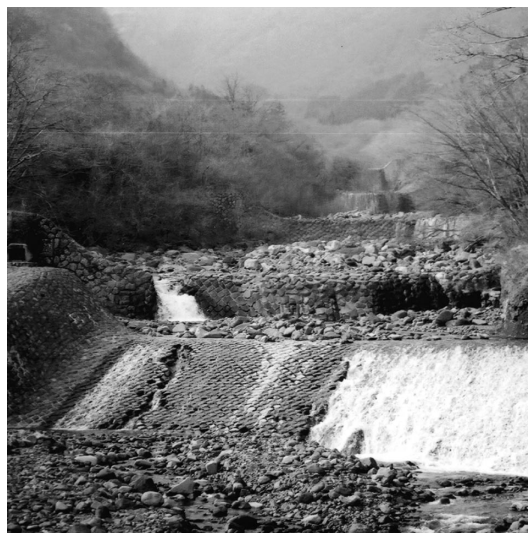
①～⑦は平成14年8月21日、⑧～⑪は平成15年1月31日に登録有形文化財に登録



図—1 日光砂防堰堤位置図



石積作業



稲荷川第2砂防堰堤



石切作業



釜ツ沢下流砂防堰堤

石積堰堤が、稲荷川本川に4基、支溪に20基施工されました。しかし、これらは竣工後まもなく、次々と土石流によって破壊されてしまいました。その後、日露戦争などの勃発などに伴い、1903年（明治36年）で県営砂防事業は打ち切られました。

しかし、流出土砂による災害が相次いでいたことから、1918年（大正7年）に内務省東京第一土木出張所、稲荷川工場が現在の日光市に設置され、国の直轄事業として稲荷川の砂防工事が着手されました。その後、1957年（昭和32年）まで新たな堰堤の建設が繰り返され、その結果、堰堤群と呼んでいいほどの数の砂防堰堤ができあがりま

した。

機械のない時代、堰堤建設は、石工が石を切り出し、これを人や馬が運び、手作業で組み上げていきました。石積みの際には、石と石の間にモルタルを塗り、石の並びや向きを微調整しながら組み合わせ、1段組み上がるごとに内部に粗石コンクリートを敷き詰めていきました。1日に1段分しか積むことができなかったといえます。また、堰堤の水通しや天端には、稲荷川の「黒烏」という非常に硬く、磨耗に強い石を使っています。

稲荷川・大谷川の砂防堰堤は、環境にやさしく、美しい自然と暮らしを守っています。